

名 称	屋久町体験活動ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間 157 番地
連 絡 先	TEL : 0997-47-2111 FAX : 0997-47-2117

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 屋久町 7, 074人

屋久島は、鹿児島市の南方135km、種子島の南西約30kmの海上にあり、面積約504.8m²、周囲132kmでほぼ円形をなしている。屋久町は島の南半分を占め、面積は約242km²で、その約87%が山林である。

島の中央部には、屋久島で最も高い宮之浦岳（1,936m）をはじめ、1,800m以上の高い山々が連なり「洋上アルプス」とも称される屋久島は、その特異な地形のため、海に近い沿岸部の亜熱帯から山の頂上付近の冷温帯まで幅広い気候分布が見られ、それに伴い亜熱帯植物から冷温帯に及ぶ植生の垂直分布が顕著に見られる。また、年間降水量は、低地では3,000～4,000mm、山間部では8,000～10,000mmにも達し、多くの固有植物、南限・北限植物が自生している。

以上のような特異な自然環境を持つことから、1993年（平成5年）12月、白神山地とともに、日本で初めて世界自然遺産に登録された。

本町は、15集落に区分されており、それぞれの集落自治が活発に行われている。また、子ども会活動も盛んであり、各団体が地域に根ざした活動を行っている。

コーディネートした事例の名称・概要・特色

名称「屋久町子ども会リーダー研修会」

町内の子ども会のリーダーが、屋久島環境文化研修センターで町の高校生クラブと町の青年団と一緒に、レクリエーション・研修・意見交換等をして、リーダー研修会を実施した。

本町では、ほとんどの中学生が子ども会員になり、子ども会が楽しい会になるかどうかは、インリーダー（中学生）の果たす役割が大きい。

研修会の内容としては、町内の各子ども会のリーダーが一堂に集まって、野外活動やレクリエーションをしたり、互いに意見交換をすることによって、リーダーとしての任務や心構え等について学習した。高校生クラブ会員・町青年団員に参加してもらい、寝食をともにすることで、それぞれが新鮮な刺激となり、メリットのある研修となった。

《内容与方法》

- 目的
各子ども会のリーダーに、リーダーとしての任務や心構えなどについて研修させ、子どもたちの自立心や連帯感の育成を図り、子ども会活動の充実とリーダーとしての自覚を養う。
- 参加者
屋久町内の各子ども会のインリーダー20人、屋久町高校生クラブ会員6人
屋久町青年団員5人
- 日時
平成18年1月21日(土)・22日(日) 1泊2日
- 場所
屋久島環境文化研修センター
- はじめましてゲーム
屋久島環境文化研修センターの職員に、ネイチャーゲームを含めたゲームを依頼。
- 学習
「子ども会活動について」の学習で、「目的は何か」ということを学習。
- K Y T
グループ毎に、シートを使って学習。
- ナイトハイク
雨天の為、室内でビデオによる星空レクチャー。
- 創作活動
屋久島ならではの屋久杉の土埋木廃材を利用した木工クラフトを屋久島環境文化研修センターの職員に依頼。

コーディネートの実際

当事業をコーディネートするに当たっては、屋久町子ども会連絡協議会(以下、「町子連」という。)事務局をサポートする形で行った。おおむね計画は、町子連事務局が立て、それにアドバイスをする形を取った。また、当日の講義の一部をセンターで行い、「子ども会活動の計画を立てる際の目的について」という内容で指導を行った。

最初は、特に目的意識のない状態で参加してくる子ども達に、いかに1泊2日の研修の中で「リーダー」という自覚を持たせるかという点を意識し、講義だけでなく食事の準備や施設の利用の仕方にも目を配って指導を行った。子どもたちの感想を見ると、講義などを通じて「今後の活動に今回学んだことを活かしたい」という意見が多くみられたことは、一定の成果であると認識している。

また、高校生や青年団など当事業の本来の対象からは外れる、異年齢のメンバーを加えることにより、活動全体に緊張感を持たせ、社会性の醸成を図ることも目指した。中学校を卒業すると同時に、島外の高校へ進学し島を離れる生徒がいる中、少しでも島の良さを理解で

きることを期待し、縦の繋がりを作り、将来高校生クラブ・青年団への関心が高まるようにした。高校生クラブ会員や青年団員も、改めて地域のリーダーとして活動するということの意義や目的設定などを考え直す機会になったようである。

《成果と課題》

- 1泊2日の研修ではあるが、異世代の団体が寝食を共にすることで、それぞれの良さを知り、互いに学びあえた。
- 子ども会活動の学習を更に密にしながら、子ども会活動の楽しさを理解できるようにする工夫が必要である。
- 初の試みとして、中学生が講義を受けている間、高校生クラブ会員には、まったく異なるカリキュラムを受けてもらった。擬似妊娠体験セットを利用して、男女共に妊娠体験をしてもらい、将来親になる自覚及び自分の親に対する感謝の気持ちの醸成などに努めた。本事業の本来の目的とは違うが、高校生クラブ会員が集まる機会を利用して柔軟に取り組んだことは、プラスであったと考える。

【参加者の感想】（原文のまま抜粋）

- ・初めて会った人なのに、すぐにうちとけてとても仲の良い友達になれたところがすごく嬉しくて感動した。
- ・子ども会で、今あったことをおしえていきたい。
- ・生徒会や子ども会で体験、学んだことをためてみたいと思う。
- ・子供たちへの接し方など、勉強になりました。
- ・子供会のリーダーの役割の大きさが、今回の研修を通して強く分かった。
- ・またこのメンバーで屋久町（子ども会）を良くするために活発にたくさん活動していきたい！



高校生や青年団も加わってのネイチャーゲームで親睦を深める



屋久島の木を使った木工クラフト



食事の準備などは、高校生クラブ会員が
リードして行った

執筆者職・氏名：屋久町教育委員会	教育振興課社会教育係主事	金子 愛
屋久町教育委員会	教育振興課社会教育指導員	永田 和子